



第12回・第13回 かながわ教育学講座

令和2年2月2日(日)、2月9日(日)にそれぞれ第12回・第13回かながわ教育学講座を開講し、両日とも各グループに分かれて「授業発表」を行いました。



授業発表

受講者は、第4回「いま求められる授業」、第6回「授業づくりを学ぶ①」、第9回「授業づくりを学ぶ②」で授業づくりについて学んできました。第12回・第13回の授業発表は、その集大成となります。

受講者は各自が準備した1単位時間の学習指導案を基に、冒頭10分間の授業発表を行いました。その後、受講者同士での意見交換を行い、授業の良かった点や改善点等を出し合いました。教育実習にまだ行っておらず、授業の経験が全くない人から、すでに学校現場で教壇に立っている人まで、受講者の経験はそれぞれ異なります。しかし、どの授業も教材や提示資料などに様々な工夫が凝らされていて、受講者が多くの時間をかけて準備してきたことが伺えました。



児童・生徒役の受講者の反応を確認しながら、笑顔で授業を進めました。

児童・生徒が興味・関心を持つように、教材を準備しました。





グループワークや
ペアワークを取り
入れ、対話的な学び
を促しました。

本時の授業の流れを示
し、児童・生徒が見通し
を持って学習できるよ
うに板書しました。



授業者以外の受講者は、児童・生徒役として授業を受けました。その際、「児童・生徒が主体的に参加できるように工夫しているか」「授業のねらいや、児童・生徒に『身に付けさせたい力』は、明確に伝わっているか」「声の大きさ、話の分かりやすさ、立ち居振る舞い、板書や教具はどうか」という3つの視点を持って参加しました。

初めは緊張していた授業者も、児童・生徒役の受講者の積極的な発言や反応によって、笑顔で授業を行う様子が見られました。第9回かながわ教育学講座の模擬授業や実践力向上講座、スクールライフサポーターでの学校現場等での学びをいかし、教具や板書を工夫していたり、グループ活動を取り入れて児童・生徒が参加しやすくなり、主体的な学びを促す指導がされていました。授業発表後は、受講者同士で白熱した意見交換がなされていました。また、所員(指導主事、教育指導専門員、教育指導員)から、授業者一人ひとりに向けて指導・講評が行われ、授業づくりを進めていく上で様々なことに考慮しながら教材研究をしていくことの重要性や、教員としての心構えなどについての話がありました。授業発表を終え、準備してきた授業に手応えを感じた受講者がいる一方で、思うようにいかなかったと授業の反省点を振り返る受講者もいました。授業経験が豊富な所員からの専門的なアドバイスを受け、指導のポイントだけでなく、授業づくりの面白さや奥深さを学ぶことができたのではないのでしょうか。



受講者は、授業発表を経験したことで、教職への熱い思いがより一層強まったようでした。よりよい授業を目指して、これからも学び続けていってほしいと思います。